

## 参院農水委員会・紙智子議員が求める TPPの関税撤廃は循環型地域の地域経済を壊す。「やめてほしい」は一番の現場の声

紙智子議員は、9日の参院農水委員会で、TPP「大筋合意」について自民党の公約や国会決議に違反するものと追及し、TPPからの撤退を強く求めました。紙議員は、TPPとともに日豪EPAでも、農産物の重要品目を関税削減の対象から「除外又は再協議」するよう求めている決議を上げていることをあげ、森山裕農水相が日豪EPAについて「決議は守れなかった」と発言していたことを指摘。TPPでも「守れなかったと率直に認めるべきだ」と迫りました。

**紙議員**の「私たち日本共産党は、TPP大筋合意を受けて全国調査を行っております。実情をお聞きしているわけですが、どなたと懇談しても国会決議を守ったと言われる方は一人もいないんです。国会決議を守ったと言えるのでしょうか。」との問いに、**森山農水相**は、「国会決議の趣旨に沿っているものと評価して頂ける」と答えています。

**紙議員**「日豪EPA合意の際に、大臣は自民党農林貿易対策委員長で、当時、『日豪EPAに関する決議は守られなかった』とマスコミに率直に述べておられる。TPPについても、これ、国会決議を守れなかったと率直に言われるべきじゃないんでしょうか。」**森山農水相**「政府の立場で申し上げる立場にありません。国会でご審議いただくこと」

**紙議員**「いま、政府の立場かも知れませんが、私も、同じ人物ですから。当時、『関税削減の対象から除外又は再協議』ができなかったとおっしゃられている。TPPの国会決議も重要品目について『除外又は再協議』とされている。繰り返しですが、国会決議が守れなかったということなんじゃないでしょうか。**森山農水相**は、「決議が守れていないという発言を申し上げた記憶はありません。」と聞き直りました。



質問する紙智子議員＝  
9日、参院農水委  
写真はしんぶん赤旗提供

**紙議員**「TPPで9%とこんなに下がったら見通しが持てない、瓦解していく中身であって、セーフガードも蓋を開けたら四年間発効がなかったら廃止だ。これはもう国会決議に違反しているのはあきらかだと言わざるを得ない。」

十勝地方で八百頭の肉牛肥育農家の方は、価格が下がってホルの雄肉と競合する輸入牛肉が増えれば、経営が成り立たなくなる。酪農との共同が困難になると言われた。酪農家は乳雄を肥育農家に販売し、畑作農家に堆肥を提供しつつ麦藁を受け取る。共同しながら生産を続ける、この循環型の地域経済が壊れていくんじゃないかと。そう思うんですけどいかがですか。」  
「十勝地方には乳業工場だけ見ても、大手で6工場、中小で46工場もある。大学や高校、学校にも4工場ある。関連工場、運送、雇用をはじめ、農業は地域を支える基幹産業になって、農業を軸に地域が成り立っている。」十勝の畑作は、麦類、豆類、馬鈴薯、甜菜の4作物を4年ローテーションして作付けしていく輪作体系が確立されています。TPPで外国産の麦の輸入枠をつくって、輸入差益を半減することになれば、麦の生産が困難になる、輪作体系が崩れたら他の作物もダメになると語っているんです。ある町長は、畑作の努力があつてこそ人口は減少せず、過疎地域も脱却してきた。長年かけて築いたこの輪作体系が今度のTPPで崩れてしまうと。これ、いかがですか。」

**紙議員**「現場では、国会決議を守ったと誰も言いません。むしろ『TPPはやめてほしい』と出てくる。農業を守って地域経済を支える、消費者に安全・安心できる国産品を提供するとなれば、TPPからの撤退が今一番必要なことではないかと強く申し上げて、質問を終わります。」（裏面へ続く）